

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

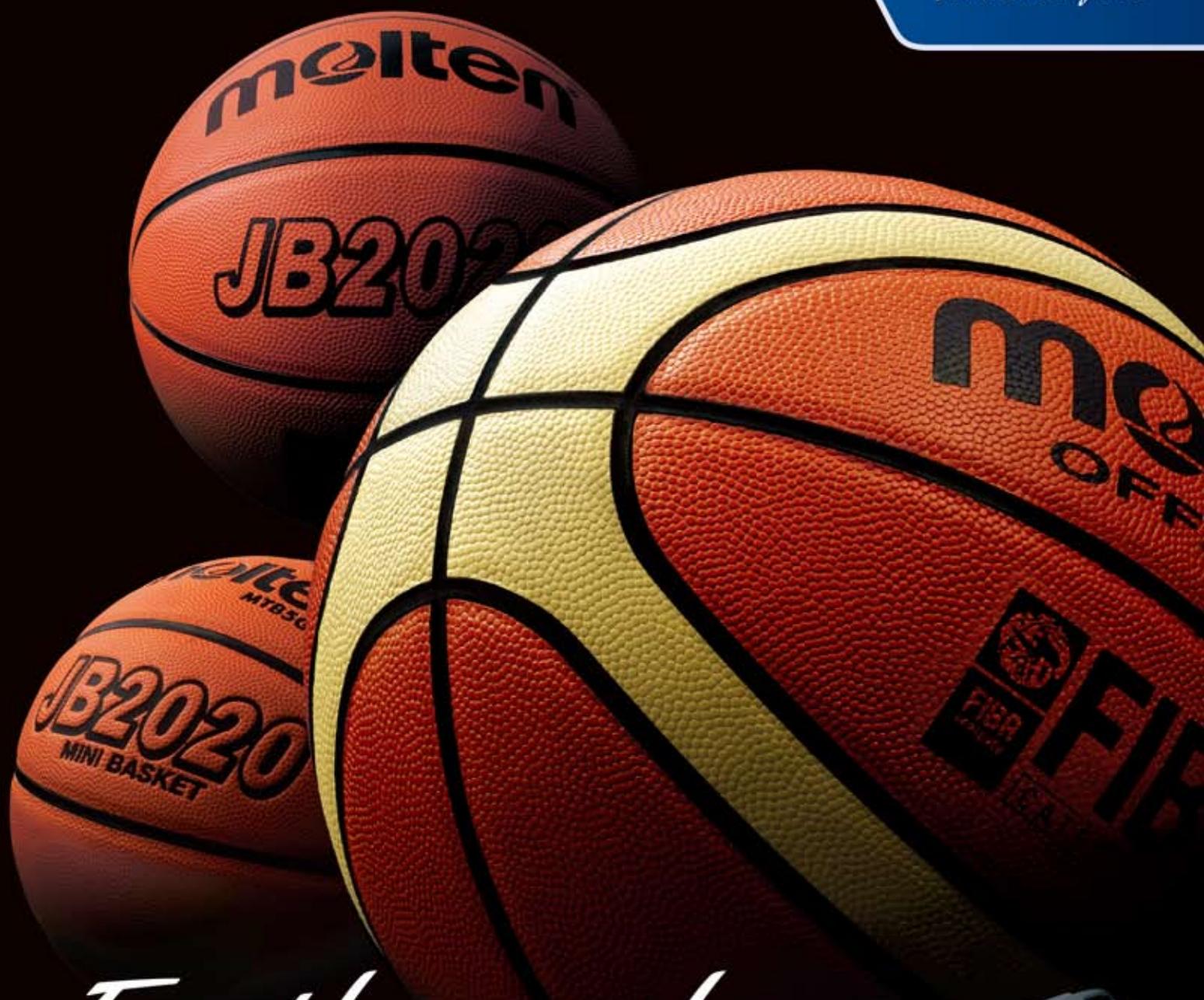
No.74



2017年6月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。



目 次

- 理事会と定期総会を開催 2
- Bリーグ初代王者決まる 14
栃木が激戦を制して優勝
- 東アジア選手権大会 2017 結果 21
男子日本代表アカツキファイブは3位
- 全国シニア交歓大会 in YOYOGI (第10回) 開催 普及部 . . . 24
- ミニバス・クリニックに協力 総務部・普及部 . . . 34
東京都目黒区立中央体育館主催行事へ講師派遣
- 会員だより
バスケットボール湘南だより (その18) 中瀬 達雄 . . . 36
尾張名古屋に4校リーグあり (その3) 三谷 千尋 . . . 38
- JBA社会人連盟発足 40
実業団、クラブ、家庭婦人、教員の各連盟統一へ
- 訃報・追悼文 42
- 事務局だより 44
- プラザ こぼればなし 45

理事会と定期総会を開催

[編集部]

平成28年度事業活動報告と収支決算、平成29年度事業計画案と予算案について、定例の理事会と総会が開催され、いずれの議案についても原案通りに可決、承認された。

[理事会]

開催日時 平成29年4月19日(木) 16～17時30分
開催場所 東京都千代田区神田神保町1-40 豊明ビル3F
NPO法人日本バスケットボール振興会事務所
出席者 (敬称略五十音順)
会長 佐室有志
副会長 大野龍一 小澤正博 従野明宏
理事長 渡辺 誠
副理事長 蒲田尚文 上谷富彦 佐々木政治 杉山絹枝
理事 榎原みどり 佐藤精孝 坂本 博 渋谷美由紀 羽佐田恭正
監事 黒川敏雄 清水英邦

[総会]

開催日時 平成29年5月25日(木) 15時～16時
開催場所 東京都千代田区神田駿河台 池坊東京会館
出席者 会長、副会長、理事長、副理事長、理事、監事、会員
会員総数190名に対し、出席28名、委任状提出98名で会員数の過半数により総会は成立 議事録署名者 池田理、杉山絹枝の2名

[佐室会長総会挨拶]



本日は29年度総会へのご出席有難うございます。Bリーグが始まりあちこちで熱戦が繰り広げられ、残すはチャンピオンシップの決勝戦だけとなりましたが、全体的に良い方向へ向かっていると思います。

Bリーグの選手を含めた男子日本代表は、Bリーグが終わると強化に入るとは思います。東京オリンピックに向けて、前向きに取り組んで頂きたいとします。

女子日本代表は、アジアで優勝してリオ・オリンピックへ出場し、好成績を残しましたが将来楽しみな存在です。

本日は、平成28年度活動報告と収支決算、平成29年度活動計画案と予算案が審議される予定ですが、忌憚のないご意見を述べていただければ幸いです。

最近振興会の会員数が減ってきております。皆さんの周りの方々を誘って、会員数増加へ是非ともご協力くださるようお願いいたします。

[議 事] 上記両会議とも共通

第1号議案 平成28年度事業活動報告 渡辺理事長

平成28年度の事業活動は資料の通りですが、主な項目について説明いたします。

1. 日本バスケットボール協会への協力と提言 ——

日本バスケットボール協会の活動、事業への協力

JBAとの情報交換については、昨年8月に田中専務理事と会談、WJBLの斎藤会長と10月に面談し、振興会について各々理解を深めていただきました。また、新たに発足した社会人連盟についても、それらを企画したスタッフと会談し、バスケットボールプラザのメディア対応についても担当者と連携を密にしたところです。



2. バスケットボール競技団体への協力・支援 —— シニア、家庭婦人、障害者、ミニ、中体連など

3. バスケットボールの広報・啓発活動の推進 —— バスケットボールの日の活動支援、日本バスケットボール学会との連携など

バスケットボールの日活動支援は、12月14日に代々木第二体育館で開催されたバスケットボールの日のイベントを支援し、発足して2年が経過したバスケットボール学会とも連携を密にしました。学会を支援するため事務所提供の便宜を供してきましたが、学会が独自に事務所の開設を行いましたので、提供は今年度で終了します。

4. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集

戦後JBAが発刊した機関紙「バスケットボール」の収集保管が完了し、現在全数が揃い事務所に保管されています。同時に戦前に発行された「籠球」という名の機関紙についても収集を行い、事務所に保管してあります。

5. 組織の充実と財政の確立 —— 会員の増強、助成事業などの見直しを実行し、財政の健全化を図る

残念ながら逝去者も多く、退会者を含め会員が減少しました。新規会員の増加と有料広告の獲得に努力を重ねる必要があります。

6. 会員相互の交流を図る

昨年11月に女子日本代表ヘッドコーチ内海氏を招聘して講演会を開催したところ、62名もの方々が参加されたことは特筆されます。当日は報道関係者も多く、講演会もやり方次第で、多くの関係者を集めることができる実証となりました。



蒲田総務部長

各部別活動実績

各部	事業内容	事業目標	事業計画	事業実績
総務部	振興会活動の発展支援	1) JBA事業活動への協力と提言	・ JBA、Bリーグ等との関係の維持強化	・ JBA専務理事と面談 ・ WJBA会長、専務理事と面談
		2) メルマガの内容充実と会員の増強キャンペーンの実施	・ 広報部、編集部との協力の下3ヶ月毎に発信 ・ 全国シニア交歓大会での積極的な勧誘他	・ シニア大会での勧誘 (実績男子2名)
		3) 会長、理事長の特命事項	・ バasketボールの新たな展開への課題の対応	・ JBA幹部の振興会会員への取り込みでターゲットを絞り込み
広報部	振興会の周知による会員増強施策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・ 公式ホームページの下記項目の更新 ・ 国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・ 振興会の活動予定、活動内容の告知	・ ホームページ主項目の更新 ・ 大会スケジュール ・ バasketボールプラザの主記事掲載
		2) 本会の会員であることのメリットをアピールする	・ 総務部と連携してメルマガジンの会員を増やして発信 ・ プラザ発行後すぐにメルマガを配信	・ メルマガの発信
		3) JBAと連携しバスケットボール資料のデータベースを作成	・ JBAオフィス引越しの機会に大幅に整理	・ 今期は作業見送り
		4) 若年層のバスケットボール愛好者にも訴求するような広報の内容・手法を検討する	・ 事業目標に向けた具体的検討 ・ 入会促進リーフレットとカードのリニューアル	・ 今期は作業見送り

		5) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭婦人大会プログラムへ広告掲載 ・月刊バスケットボール誌を希望会員へ配布 ・「映像に見る日本バスケットボールの歴史」などの開催企画 ・タチカラ製バスケットボールハンドブックのWEB版作製を追加 	・左記のうち上位2項目を実施
歴史部	バスケットボール競技に関する歴史情報の収集と周知	1) 歴史的資料の収集・保管を継続する	・継続実施	・同左実施
		2) 過去のオリンピック出場者の歴史検証	・女子アトランタ・アテネ出場選手役員の座談会を行い5月のプラザに掲載	・同左実施
		3) 新企画のテーマとして競技施設の歴史的検討を取り上げる	・ボールの歴史を取材継続し、まとめ次第プラザに掲載	・ボール製作各社を取材
編集部	会報「バスケットボールプラザ」の編集と発行	1) 年間4回の定期発行 5月、8月、11月及び翌年2月	・掲載記事充実のため、各号3回以上の編集会議を開催	・計画通り実施
		2) 関連する協会・連盟等の取材記事充実	・JBAをはじめとするバスケットボール関連各種団体と連携を密にして積極的に取材	・積極的注力も取材面で一部不足あり
		3) 掲載記事内容の拡張と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・振興会内部の各部門と連携し案件を授受し特集記事に作成して編集（掲載記事の積極的な収集） ・振興会会員に参加して頂くバスケットボール関連記事の発掘 ・その他会報に適切な記事の発掘（情報提供、問題提起、建設的意見交換、自身の奮闘記事などの提供呼びかけ） ・その他会報に適切な記事の発掘 	・記事の収集充実に注力、実行

		4) 有料掲載広告の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・広く会員にお願いして種々の業種・団体と交渉 ・前年度実績以上の獲得を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規1件、中止1件で件数ベースでは同数確保となったが、金額ベースでは5万円減
普及部	バスケットボール競技の普及・支援	1) 全国シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	<ul style="list-style-type: none"> ・代々木第二体育館で全国シニア交歓大会の開催（5月31日・6月1日）と助成 ・全国ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左実施
		2) 障害者バスケットボールの活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者バスケットボールの活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左実施
		3) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生初心者向けクリニックに協力（世田谷区、京都市、首都圏で1,2か所）、「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催 ・目黒区体育館主催のクリニックへ協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区、京都市の2か所で実施 ・同左実施
		4) 「12月21日はバスケットボールの日」記念行事に協力	<ul style="list-style-type: none"> ・代々木第二体育館で開催する記念行事に協力と助成を行う（12月14日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左実施
事務局	振興会活動の運営支援	1) 通常総会	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度活動報告/同左決算報告 ・28年度活動計画/同左予算案 ・春季交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月20日(金)池坊東京会館で開催 ・交流会に28名参加
		2) 秋季講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・28年11月講演会及び秋季交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月8日(火)女子日本代表ヘッドコーチ内海知秀氏を講師に迎え、池坊東京会館で開催、62名参加
		3) 理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、年2回開催（於：振興会事務所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月21日、12月8日開催
		4) 正副部長会	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、3ヶ月に1回開催（於：振興会事務所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月12日、9月13日、11月15日、2月7日、3月14日開催

事務運営の効率化	5) 会員の名簿管理、会費の管理	・会員の名簿管理、会費の管理と併せて会費の徴収を迅速に実施	・同左実施
----------	------------------	-------------------------------	-------

平成28年度会員動向

	平成27年度末 (H28.3.31)	平成28年度末 (H29.3.31)	増減	備考
個人会員	203名	190名	▲13	新規会員 8名 退会者 21名
法人会員	11社	11社	0	

退会者のうち逝去者4名



第2号議案 平成28年度収支決算報告 佐々木事務局長

経常収支差額がマイナスとなり、今年度決算は僅かですが赤字となってしまいました。その主な要因は経常収入の大幅な減少によるもので、会費収入、事業収入とも予算を下回り、寄付金についても昨年より減額となりました。

ご報告の通り支出面で相当な切り詰めを行いました、大幅収入減をカバーするには至りませんでした。



(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位:円)

科 目	28年度予算	28年度決算	増 減
I 経常収支の部			
1. 経常収入			
(1) 会費収入			
正会員会費	1,800,000	1,665,000	▲ 135,000
賛助会員会費	550,000	500,000	▲ 50,000
会費収入計	2,350,000	2,165,000	▲ 185,000
(2) 事業収入			
広告掲載料	220,000	180,000	▲ 40,000
月刊BB負担金	440,000	372,000	▲ 68,000
各種販売益	0	42,250	42,250
交流会・講演会	50,000	16,579	▲ 33,421
シニア大会	325,000	325,000	0
その他	0	0	0
事業収入計	1,035,000	935,829	▲ 99,171
(3) 寄付金	270,000	182,000	▲ 88,000
(4) 雑収入	60,000	105,499	45,499
(5) 受取利息	0	71	71
経常収入計	3,715,000	3,388,399	▲ 326,601
2. 経常支出			
(1) 事業費			
広報・啓発活動費	1,369,000	1,140,496	▲ 228,504
普及支援活動費	615,000	529,144	▲ 85,856
協力及び提言活動費	0	0	0
調査・研究活動費	100,000	77,544	▲ 22,456
その他活動費	50,000	83,700	33,700
事業費計	2,134,000	1,830,884	▲ 303,116
(2) 管理費			
会議費	100,000	89,885	▲ 10,115
通信費	150,000	173,486	23,486
水道光熱費	60,000	52,495	▲ 7,505
事務所借用費	720,000	709,464	▲ 10,536
租税公課	0	0	0
会員証作成費	0	0	0
雑費	0	30,000	30,000
その他事務所運営費	490,000	542,956	52,956
管理費計	1,520,000	1,598,286	78,286
経常支出計	3,654,000	3,429,170	▲ 224,830
3. 経常収支差額	61,000	▲ 40,771	▲ 101,771
II その他資金収支の部			
1. その他資金収入			
その他資金収入計	0	0	0
2. その他資金支出			
その他資金支出計	0	0	0
当期収支差額	61,000	▲ 40,771	▲ 101,771
前期繰越収支差額	932,326	932,326	0
次期繰越収支差額	993,326	891,555	▲ 101,771

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

NPO法人 日本バスケットボール振興会

[税込] (単位:円)
2017年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	30,836
現金	2,033	預り金	24,000
普通預金	474,403	流動負債計	54,836
振替貯金	210,467	負債の部合計	54,836
現金・預金計	686,903		
(その他流動資産)		正味財産の部	
前払費用	59,122	【正味財産】	
その他流動資産計	59,122	正味財産	891,555
流動資産合計	746,025	(うち当期正味財産増加額)	△40,771
		正味財産計	891,555
【固定資産】		正味財産の部合計	891,555
(投資その他の資産)			
長期積金	200,366		
投資その他の資産計	200,366		
固定資産合計	200,366		
資産の部合計	946,391	負債・正味財産の部合計	946,391

※事務所借出費が平成28年度内に13か月分支払われたため、1か月分を前払の費用として計上

会計監査報告書

特定非営利活動法人 日本バスケットボール振興会の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの会計処理について監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

平成29年4月19日

監事

黒川敏雄

監事

清水英邦

第4号議案 平成29年度事業活動計画 渡辺理事長

平成29年度事業活動計画について、以下のような基本方針が提案され、続いて各部長から具体的な事業計画が提案された。

29年度事業活動計画は28年度と同様の内容です。現在JBAでは社会人カテゴリーの統一や、全日本総合選手権大会の改革など、いろいろと変革しておりJBAとの連携も改めて相談しながら進めていきます。

1. 日本バスケットボール協会への協力と提言

—— 日本バスケットボール協会の活動、事業への協力

2. バスケットボール競技団体への協力・支援

—— シニア、家庭婦人、障害者、ミニ、中体連など

3. バスケットボールの広報・啓発活動の推進

—— バスケットボールの日の活動支援、日本バスケットボール学会との連携など

4. 日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集

5. 組織の充実と財政の確立

—— 会員の増強、助成事業などの見直しを実行し、財政の健全化を図る

6. 会員相互の交流を図る

各部別活動計画

各部	内容 事業	事業目標	29年度事業計画
総務部	振興会活動の発展支援	1) JBA事業活動への協力と提言	・ JBA、Bリーグ等との関係の維持強化
		2) メルマガの内容充実と会員の増強キャンペーンの実施	・ 広報部、編集部との協力の下3ヶ月毎に発信 ・ 全国シニア交歓大会での積極的な勧誘他
		3) 会長、理事長の特命事項	・ バスケットボールの新たな展開への課題の対応
広報部	振興会の周知による会員増強施策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・ 公式ホームページの下記項目の更新 ・ 国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・ 振興会の活動予定、活動内容の告知
		2) 本会の会員であることのメリットをアピールする	・ 総務部と連携してメールマガジンの会員を増やして発信 ・ プラザ発行後すぐにメルマガを配信
		3) JBAと連携しバスケットボール資料のデータベースを作成する	・ バスケットボール資料のデータベース作成
		4) 若年層のバスケットボール愛好者にも訴求するような広報の内容・手法を検討する	・ 事業目標に向けた具体的検討 ・ 入会促進リーフレットとカードのリニューアル
		5) その他	・ 家庭婦人大会プログラムへ広告掲載 ・ 月刊バスケットボール誌を希望会員へ配布
歴史部	バスケットボール競技に関する歴史情報の収集と周知	1) 歴史的資料の収集・保管を継続する	・ 継続実施
		2) 新企画のテーマとして競技施設の歴史的検討を取り上げる	・ ボールの歴史をまとめプラザに掲載

編集部	会報「バスケットボールプラザ」の編集と発行	1) 年間4回の定期発行 5月、8月、11月及び翌年2月	・掲載記事充実のため、各号3回以上の編集会議を開催
		2) 関連する協会・連盟等の取材記事充実	・JBAをはじめとするバスケットボール関連各種団体と連携を密にして積極的に取材
		3) 掲載記事内容の拡張と充実	・振興会内部の各部門と連携し案件を授受し特集記事に作成して編集（掲載記事の積極的な収集） ・振興会会員に参加して頂くバスケットボール関連記事の発掘 ・その他会報に適切な記事の発掘（情報提供、問題提起、建設的意見交換、自身の奮闘記事などの提供呼びかけ） ・その他会報に適切な記事の発掘
		4) 有料掲載広告の獲得	・広く会員にお願いして種々の業種・団体と交渉 ・前年度実績以上の獲得を図る
普及部	バスケットボール競技の普及支援	1) 全国シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	・代々木第二体育館で全国シニア交歓大会の開催（5月15日・16日）と助成 ・全国ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成
		3) 障害者バスケットボールの活動支援	・障害者バスケットボールの活動支援
		4) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	・中学生バスケットボール（初心者向け）クリニックに協力（世田谷区、京都市）、「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催 ・目黒区体育館主催のクリニックへ協力
		5) 「12月21日はバスケットボールの日」記念行事に協力	・代々木青少年スポーツセンターでの開催に協力
事務局	振興会活動の運営支援	1) 通常総会（於：池坊東京会館）	・28年度活動報告/同左決算報告 ・29年度活動計画/同左予算案 ・春季交流会
		2) 秋季講演会（於：池坊東京会館）	・29年11月講演会及び秋季交流会
		3) 理事会	・原則、年2回開催（振興会事務所）
		4) 正副部長会	・原則、3ヶ月に1回開催（振興会事務所）
	効率化	5) 会員の名簿管理、会費の管理	・会員の名簿管理、会費の管理と併せて会費の徴収を迅速に実施

第6号議案 役員の退任 渡辺理事長

氏名	役職	退任理由
阿部 進	副会長	平成29年1月15日ご逝去

議事終了後のフリー討議で、概略以下の意見が提案された。

1. 振興会が発足して今年で40年となるが、何か記念行事を開催してはどうか。
2. 収入をみると毎年のように減額となっている。このままではじり貧になるやもしれず、他団体への助成もさることながら、自分たちの組織強化が必要ではないか。
3. 過去の名選手のことをプラザに取り上げてはどうか。
4. ミニバス大会は相変わらず高人気で開催されている。将来のためにもミニバス会場で振興会の宣伝をしてみてもどうか。

春季交流会

総会終了後開催された交流会には、かつての名選手、諸山理事や遠く岩手県から油井氏も参加、和やかなひと時が流れた。



岩手県からの由井氏

Bリーグ初代王者決まる

栃木が激戦を制して優勝

[編集部]

男子プロリーグのB1リーグは、昨年9月からリーグ戦によるレギュラーシーズンに入り、リーグ戦上位クラブによるCS（チャンピオンシップ）に入った。

リーグ戦でCS出場権をかけて、レギュラーシーズンの最終戦まで争った西地区の琉球と大阪、CSのポジションを巡って、これまた最後まで争い続けた東地区A東京と千葉や中地区の三遠と渋谷など、見どころの多いレギュラーシーズンだった。

また、下位4チームがB1残留をかけて戦うB1残留プレーオフも注目を集める試合となった。

[レギュラーシーズンB1最終順位]

東地区

順位	クラブ	勝-負	勝率%
1	栃木ブレックス	46-14	76.7
2	アルバルク東京	44-16	73.3
3	千葉ジェッツ	44-16	73.3
4	レバンガ北海道	23-37	38.3
5	秋田ノーザンハピネッツ	18-42	30.0
6	仙台89ERS	14-46	23.3

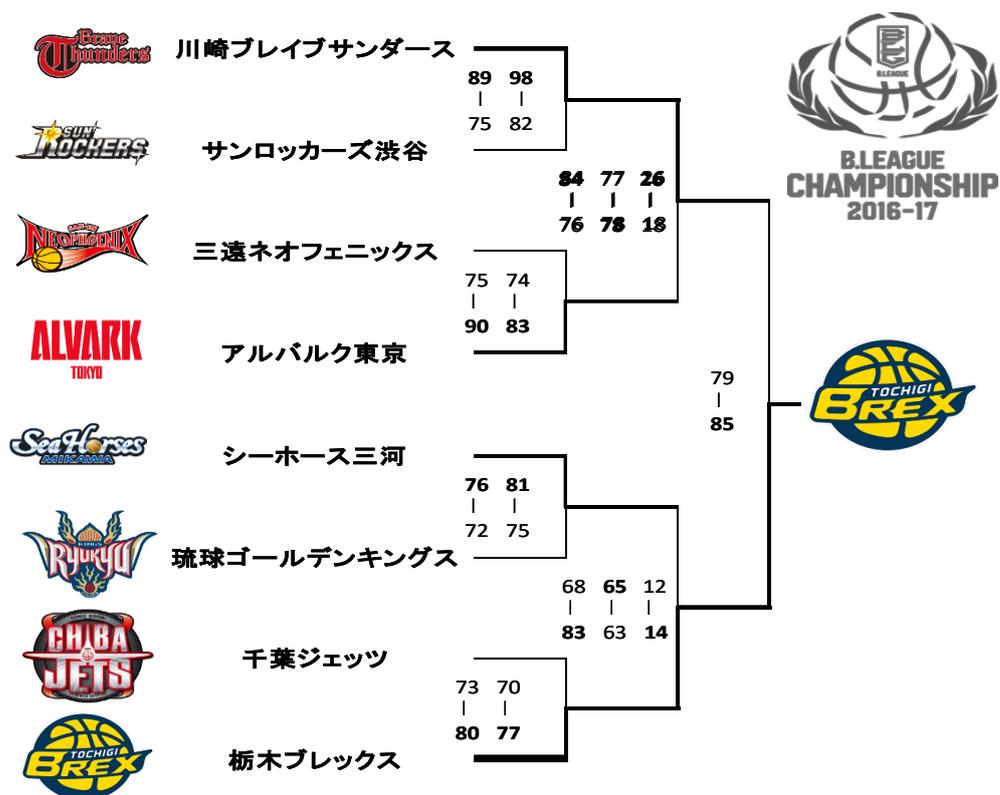
中地区

順位	クラブ	勝-負	勝率%
1	川崎ブレイブサンダース	49-11	81.7
2	三遠ネオフェニックス	33-27	55.0
3	サンロッカーズ渋谷	32-28	53.3
4	新潟アルビレックスBB	27-33	45.0
5	富山グラウジーズ	18-42	30.0
6	横浜ビー・コルセアーズ	16-44	26.7

西地区

順位	クラブ	勝-負	勝率%
1	シーホース三河	46-14	76.7
2	琉球ゴールデンキングス	29-31	48.3
3	大阪エヴェッサ	28-32	46.7
4	名古屋グレイズ	27-33	45.0
5	京都ハンナリーズ	25-35	41.7
6	滋賀レイクスターズ	21-39	35.0

[B1リーグCSトーナメント]



CSトーナメントは、5月13日、14日と準々決勝が行われ、各2試合を行い1勝1敗の場合は14日の試合終了後、前後半各5分の再試合が行われる方式でスタート。いずれの対戦も1勝1敗になることはなく、上図のようにレギュラーシーズンの上位クラブが準決勝へ進んだ。

準決勝は、5月19日から22日にかけてそれぞれ2試合行われ、1勝1敗の場合は2日目の試合終了後、前後半各5分の再試合が行われ、決着がつかない場合は5分間の延長戦を決着がつくまで行う方式。ここでは両対戦とも1勝1敗となり、特別ルールによる第3戦の結果、川崎と栃木が決勝戦へ進出した。

両クラブが1勝1敗になったときに採用されるこの特別ルールは、かつてbjリーグが取り入れていたルールで、大川チェアマンは「特に根拠はないが、bjリーグが行っていた際、そんなに不都合もないようだったので」とコメントしている。

5分ハーフの再試合は延長戦ではないので、出場選手は得点やファウルといったデータは全て一旦クリアされるので、それまでのプロセスを切り替え、新たな気持ちで試合に臨めるところが特徴。

しかしながら体力の消耗はいかんともしがたく、得点もロースコアに終わりがち。特別ルールの見直しがあるのかどうか、次年度以降の方針が注目される。

厳しい準決勝を勝ち抜いたクラブ同士による決勝戦は、5月27日東京国立代々木競技場第一体育館で1試合のみ行われ、会場は1万人以上の大観衆が詰めかけ超満員の盛況。試合は一発勝負の戦いで最初から両者とも闘志むき出して戦いに入った。

試合はバスケットボールの醍醐味満載の内容で文字通り好試合、最後までどちらが勝つのかわからない大接戦が続き、チームカラーに染まった両チーム応援席の声援も頂点に達

していた。

特に栃木ブレックスの田臥と、川崎ブレイブサンダース篠山の両ポイントガードの絶妙なパスワークが冴えて、試合はこのほか引き締まった。インサイドプレーヤーのリバウンドやポストプレーもパワフルで、外角から確率の高い3Pシュートの競演も随所に繰り広げられ、観衆は満足し感動を覚えたに相違ないだろう。これまでにないハイレベルな名勝負として、バスケットボール史上に残る試合であった。

主な試合経過は下記に示すが、全員が一丸となって戦った栃木が最後に抜け出して初代王者に輝いた。この結果、優勝クラブ栃木に賞金5,000万円、準優勝クラブ川崎に賞金2,000万円が贈呈され、準決勝で敗れた2クラブに対しては賞金750万円、CSに出場したクラブに500万円が贈呈された。

<決勝戦>

代々木第一体育館がバスケットボールの試合で超満員になったのは開幕戦以来である。開幕戦はBリーグ本部が宣伝も兼ねて大々的に演出し、光のファンタジーだったが、この決勝戦は、自ら詰めかけたファンで立錐の余地もない状況。

会場では黄色いシャツを着た栃木ファンが、目立つサイド席を占め応援にも熱気がこもる。チケットは早くから完売状況で、今期から開幕したBリーグの人気を象徴しているような中で試合はティップオフ。

第1ピリオド

開始直後、川崎は#12 スバングラのゴール下や#14 辻の3P成功で9-5と先行する。栃木もすぐ反撃に転じ#10 竹内のシュートや#0 田臥の速攻などで13-11と逆転、川崎も#7 篠山や#12 のシュートなどで応戦、終盤、栃木は#11 須田が3Pを沈めて21-21の同点でこのピリオドを終わる。

第2ピリオド

互角の展開はこのピリオドでも続くがやや先行したのが栃木。中盤#25 古川が3Pを決めると、ディフェンスを厳しくして川崎を苦しめ、32-27と一歩リードしてオフィシャルタイムアウトへ入る。川崎は残り2分45秒に#22 ファジーカスが奮起して得点すると、その後もすぐ得点し追い上げを図る。栃木はギブスがスティールに成功すると、すかさず#25 古川が走ってレイアップに成功し、更に3Pを成功させて前半だけで13得点の大活躍、結局攻守にわたって積極的に動いた栃木が43-37と6点リードで前半を終える。

第3ピリオド

負けてはられない川崎が奮起、#7 篠山が3Pを沈めると#25 ジェフもリバウンドを頑張る得点、残り5分半には再び#7 篠山が3Pを成功させて52-51と逆転に成功する。栃木も#0 田臥の外角シュートなどで頑張ると、#13 渡邊が3Pを成功させて追い上げるが、川崎は#12 スバングラが速攻でバスケットカウントを取り63-59と川崎リードでこのピリオドを終わる。

第4ピリオド

勝負となった第4ピリオド、開始早々川崎は#0 藤井がシュートを決めて65-59と一歩リード、栃木もすぐに反撃し#25 古川のアウトサイドシュートをはじめ、#4 ギブスのバスケットカウントを含める連続得点で追い上げ、開始3分で#32 ロシターがオフENSリバウンドから得点して68-67と逆転に成功する。

対する川崎も#22 ファジーカスがフリースローやバスケットカウントを決めて反撃、栃

木も#25 古川のアウトサイドシュートなどで対抗し一進一退の状況が続き、残り4分45秒のオフィシャルタイムアウトで74-74の同点。試合はその後お互いに意地を張り合うような攻防が続くが、栃木#4 ギブスの力強いインサイドプレーによって残り2分19秒に80-77と3点リードする。川崎はその後、#12 スバングラのフリースローで1点差に迫るが、栃木は#25 古川がまたもアウトサイドから得点して3点のリードを守る。川崎はスローイン後のパスが痛恨のターンオーバーとなり、栃木#4 ギブスが得点して5点差として試合は終わり栃木が大接戦を制した。



©JBBS

MVPに輝いたのは栃木#25 古川で、この試合3P3本を含む21得点を挙げ、肝心なところでシュートを決める勝負強さが目立った。

栃木は団結した攻守で接戦を抜け出した感があり、アシストは川崎10に対して18、リバウンドも川崎32に対して44と上回る。特に勝負となった第4ピリオドで7本のリバウンドを取っていて、こぼれたボールに対する執着力の強さと、川崎の3Pシューター辻に対するディフェンスは厳しく、結果的に辻の3Pを7本中1本に抑えている。



©JBBS 優勝の栃木ブレックス



©JBBS 優勝杯を受ける田臥選手



左写真は優勝クラブに渡されたトロフィー。一見普通のトロフィーに見えるがこれが相当な価値物。宝飾品ブランドのティファニー社が半年ほどかけて作成した一品物で、価格は1,000万円を超える。

ボールは金色で高さ73cm、ボールがリングに吸い込まれる瞬間をイメージしてデザインされたという。

田臥選手が受け取っている優勝カップと併せて渡され、CSを制した栃木にとって、優勝賞金と合わせてこれまでの地道な努力が報われたと言えよう。

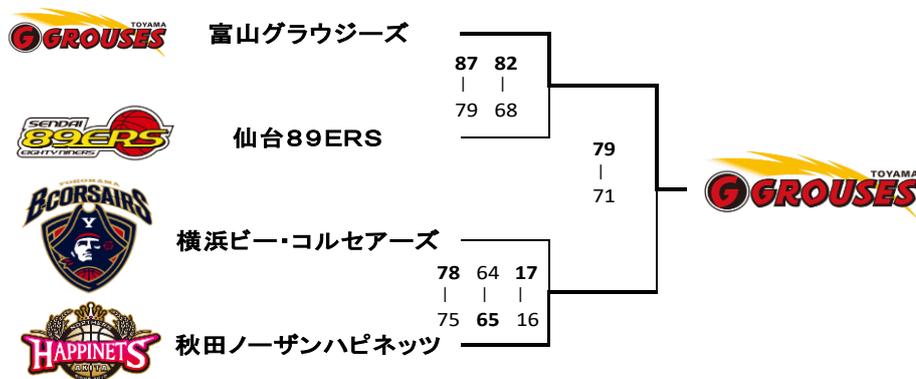
長い間続いてきた2リーグによる男子トップリーグ。FIBAから国際大会出場停止処分まで受けた日本のバスケットボール界も、今シーズンのBリーグがもたらした好感度に救われた感がある。

マスコミの注目度合いもアップし、観客総動員数も以前の2リーグを合わせた数字よりもかなり上回っている。来シーズンはCSに出場できなかったクラブの戦力向上と、新たな企画によって観客動員数の上昇を図れば先行きは明るい。

表舞台ともいえるCSとは別に行われた、B1残留プレーオフも大変な展開であった。レギュラーシーズン下位4クラブのトーナメント戦となったプレーオフで、1回戦敗退クラブは無条件でB2降格となり、替わってB2の1～2位クラブが来シーズンB1へ昇格する。最初に勝っても、次に敗れたクラブはB2の3位クラブと入替え戦を行い、負ければB2降格となる厳しさ。

残留プレーオフの結果、1位の富山はB1残留、2位の横浜はB2第3位の広島との入れ替え戦に勝ってB1残留となりホットしたところ。

[B1残留プレーオフ]



かくして昨年秋から始まったBリーグは、かつてないほどの人気を集めた。当初、B1クラブへの条件の一つ、5,000名収容できるアリーナを専用できることと謳われたのに対して、ハードルが高すぎるのではないと言われていたこともあった。しかし、このペースで行けば平均5,000名の観客動員も夢ではなさそうである。

参考までにレギュラーシーズンの観客動員数の結果を下表に掲げるが、観客動員数第1位は千葉で、ホーム会場平均が4,500名を上回った。今回優勝した栃木は第2位でホーム平均動員数が3,300名を上回り、全体的にみて、ホーム会場開催試合の平均が3,000名を上回ったのが6クラブに達したことは喜ばしい限りである。

しかしながら、ホーム平均で2,000名前後しか動員できないクラブも多く、観客動員に企画と工夫が必要なこともはっきりした。ちなみに千葉はホームシティである船橋市をはじめ千葉県全体に密着した活動を行い、栃木はホームゲームの際に選手が駅頭でビラ配りをしたりしており、特定の大きなスポンサーを持たないクラブでも、やり方によってはプロとして十分経営していけることを証明している。

B1クラブレギュラーシーズン成績表(観客動員数順)

クラブ名	地区順位	勝	敗	勝率		観客動員数(ホームゲーム)			
				順位	勝率	順位	人	平均(人)	ゲーム数
千葉ジェッツ	東3	44	16	4	0.733	1	135,043	4,501	30
栃木ブルックス	東1	46	14	2	0.767	2	100,672	3,356	30
琉球ゴールデンキングス	西2	29	31	8	0.483	3	99,615	3,321	30
秋田ノーザンハピネッツ	東5	18	42	15	0.300	4	91,734	3,058	30
新潟アルビレックスBB	中4	27	33	10	0.450	5	90,452	3,015	30
横浜ビー・コルセアーズ	中6	16	44	17	0.267	6	90,277	3,009	30
レバンガ北海道	東4	23	37	13	0.383	7	83,865	2,796	30
大阪エヴェッサ	西3	28	32	9	0.467	8	82,966	2,766	30
名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	西4	27	33	10	0.450	9	81,192	2,706	30
シーホース三河	西1	46	14	2	0.767	10	75,023	2,501	30
富山グラウジーズ	中5	18	42	15	0.300	11	74,418	2,481	30
川崎ブレイブサンダース	中1	49	11	1	0.817	12	73,461	2,449	30
仙台89ERS	東6	14	46	18	0.233	13	72,568	2,419	30
三遠ネオフェニックス	中2	33	27	6	0.550	14	70,395	2,347	30
アルバルク東京	東2	44	16	4	0.733	15	69,533	2,483	28
サンロッカーズ渋谷	中3	32	28	7	0.533	16	68,500	2,283	30
滋賀レイクスターズ	西6	21	39	14	0.350	17	64,434	2,148	30
京都ハンナリーズ	西5	25	35	12	0.417	18	58,314	1,944	30
合計							1,482,462	2,756	538
(備考) アルバルク東京オープニングG							18,593	9,297	2
再計							1,501,055	2,780	540

B2クラブレギュラーシーズン成績表（観客動員数順）

クラブ名	地区順位	勝	敗	勝率		観客動員数(ホームゲーム)			
				順位	勝率	順位	人	平均(人)	ゲーム数
熊本ヴォルターズ	西3	44	16	3	0.733	1	63,151	2,105	30
広島ドラゴンフライズ	西2	46	14	2	0.767	2	55,818	1,861	30
青森ワッツ	東4	29	31	9	0.483	3	51,902	1,730	30
山形ワイヴァンズ	東5	26	34	12	0.433	4	47,147	1,572	30
島根スサノオマジック	西1	51	9	1	0.850	5	45,015	1,501	30
信州ブレイブウォリアーズ	中6	14	46	17	0.233	6	38,229	1,274	30
群馬クレインサンダーズ	東1	40	20	6	0.667	7	36,841	1,228	30
福島ファイヤーボンズ	東3	30	30	8	0.500	8	35,283	1,176	30
アースフレンズ東京Z	中3	27	33	11	0.450	9	32,654	1,088	30
バンビシャス奈良	中4	24	36	13	0.400	10	32,612	1,087	30
西宮ストークス	中1	43	17	4	0.717	11	32,428	1,081	30
茨城ロケット	東2	32	28	7	0.533	12	31,404	1,047	30
岩手ビッグブルズ	東6	15	45	16	0.250	13	28,456	949	30
Fイーグルス名古屋	中2	42	18	5	0.700	14	26,629	888	30
東京エクセレンス	中5	22	38	14	0.367	15	24,825	828	30
愛媛オレンジバイキングス	西4	29	31	10	0.483	16	23,656	789	30
香川ファイブアローズ	西5	19	41	15	0.317	17	22,645	755	30
鹿児島レブナイズ	西6	7	53	18	0.117	18	18,810	627	30
合 計							647,505	1,199	540



BLEAGUE

東アジア選手権大会 2017 結果

男子日本代表アカツキファイブは3位

[編集部]

BリーグCS（チャンピオンシップ）が終わって息つく間もなく、6月3日から7日まで東アジア選手権 2017 が、長野市真島総合スポーツアリーナ（通称：ホワイトリング）で開催され、男子日本代表は、新たに編成されたメンバーによる最初の国際大会として臨んだが3位に終わった。

出場チームは6チームで、上位5チームが8月10日からレバノン・ベイルートで開催されるFIBAアジアカップ 2017 へ出場する。

競技は、出場チームをA・Bグループに分けて総当たりリーグ戦の予選ラウンドを行い、上位2チームがトーナメント方式の決勝ラウンドへ進む方式で行われた。

出場チームとグループ

[グループA] 韓国、日本、マカオ

[グループB] 中国、チャイニーズ・タイペイ、香港

日本代表スタッフ

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	ルカ・パヴィチヴィッチ	(公財)日本協会
アシスタントコーチ	佐々 宜央	(公財)日本協会
サポートコーチ	網野 友雄	栃木ブレックス
サポートコーチ	大村 将基	大阪エベッサ
サポートコーチ	鈴木 良和	(株)ERUTLUC
サポートコーチ	森 高大	アルバルク東京

アカツキファイブ選手

No	氏 名	P	身長	体重	年齢	所 属
0	橋本 竜馬	PG	178	81	29	シーホース三河
2	富樫 勇樹	PG	167	65	23	千葉ジェッツ
6	比江島 慎	SG	190	88	26	シーホース三河
8	太田 敦也	C	206	112	32	三遠ネオフェニックス
10	竹内 公輔	C	206	100	32	栃木ブレックス
15	竹内 譲次	PF	207	98	32	アルバルク東京
18	馬場 雄大	SG	195	88	21	筑波大学4年
24	田中 大貴	SG	192	93	25	アルバルク東京
34	小野 龍猛	SF	197	100	29	千葉ジェッツ
35	アイラ・ブラウン	PF	193	105	34	サンロッカーズ渋谷
43	永吉 佑也	C	198	115	25	川崎ブレイブサンダース
88	張本 天傑	PF	197	102	25	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ

日本代表の試合結果

6月3日 予選ラウンド 韓国戦

	1P	2P	3P	4P	計
日 本	23	14	21	20	78
韓 国	18	15	23	16	72

予選ラウンド初日の韓国戦、国内開催とあって多くのファンが応援する中で試合開始。日本は出だし好調で9-0とリードを奪うが、第2ピリオド以降で韓国のゾーンディフェンスを攻めきれず拮抗した展開が続く。後半日本は、強化してきたディフェンスで圧力をかけ、リードを奪われることなく最後までしっかりと戦い、6点差で初戦を勝ち取った。

第1ピリオド

出だし日本は、**#6**比江島の3Pシュートなどで先制、開始3分で9-0とリード。パヴィイチヴィッチコーチはメンバー交代を頻繁に行い、このピリオドだけで10人を投入。

#0橋本の3Pシュートや、**#18**馬場の速攻などで、一時は20-9とリードを広げるが、その後ミスが出て相手に得点されるとともに、最後は韓国に3Pシュートを決められて、このピリオドを5点差で終わる。

第2ピリオド

開始早々から韓国に3Pを含む外角シュートを決められて、開始3分に27-27の同点にされる。日本は**#2**富樫の好リードから**#10**竹内がダンクを決めて一歩リードするが、韓国のゾーンを攻めあぐんで得点が伸びない上にミスも出て、37-33で前半を終わる。

第3ピリオド

韓国のゾーンに対してパス回しを早くし、ノーマークになった**#8**太田が得点して4分過ぎに44-35とリードを奪うと、次には**#35**ブラウンの3Pシュートで47-37と10点差をつける。しかし、韓国に外角からのシュートやフリースローなどで徐々に点差を詰められ、最後のブザービーターで3Pを決められて58-56と1ゴール差になる。

第4ピリオド

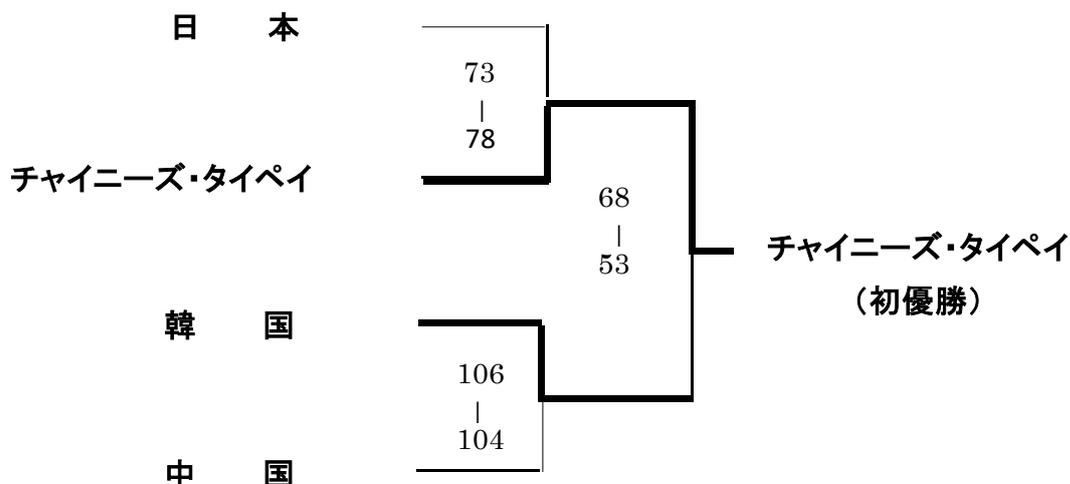
日本は韓国のゾーンに相変わらず手を焼き開始4分で64-62と2点差。苦しいシュートが続く中、日本はオフェンスを含むリバウンドを頑張り相手の攻撃を断つと、韓国のシュートも精度を欠くようになるが時々見せる3Pの威力は凄い。日本は残り1分半に韓国**#17**に3Pシュートを決められ、73-72と1点差に詰められる。逃げ切りたい日本はボールを回し、残り1分を切ってから**#2**富樫がシュートを成功させ75-72とリードした後、更にディフェンスで圧力をかけてボールを奪う。ファウルを仕掛ける韓国に対して**#24**田中がフリースローを2本決めて78-72で勝利した。

6月4日 予選ラウンド マカオ戦

	1P	2P	3P	4P	計
日 本	25	31	27	36	119
マカオ	15	6	13	13	47

予選ラウンド2日目、日本はマカオと対戦し、一方的な攻撃で100点を大幅に上回る得点で勝利してAグループ1位となり、決勝トーナメント1枠に入ることが決まった。

決勝ラウンド



日本は、決勝トーナメント準決勝でチャイニーズ・タイペイに思わぬ苦戦となり、相手にオフェンスリバウンドを取られて先行得点され、後半必死に詰め寄るも自らのミスで再び失点を重ね、決勝進出を逃す。

6月7日 3位決定戦

	1P	2P	3P	4P	計
日本	26	9	22	19	76
中国	9	11	21	17	58

チャイニーズ・タイペイに敗れた日本は、3位決定戦で中国と対戦。平均身長 200cm の中国に対して、徹底的にディフェンス。これが功を奏して第1ピリオドで相手を1桁得点に抑え、攻めては連続3Pシュートなどで大量リードを奪う。

第2ピリオド以降は互角の戦いとなったが、ディフェンスを頑張って失点を抑え、第4ピリオドでも衰えることないスピードで中国を圧倒し、久しぶりに中国に快勝した。

この大会で日本は、相手のゾーンディフェンスを攻撃するのに手を焼いて、3位に甘んじた。特に韓国戦の第2ピリオド、チャイニーズ・タイペイ戦の前半、中国戦の第2ピリオドで相手ディフェンスがマンツーマンからゾーンに切り替えた時点でのゾーンを攻めきれず15点以下の得点で終わっている。

単純計算だが、いずれのピリオドでも20点以上を獲得しなければ総得点80点以上は難しい。今回マカオ戦以外では総得点が80点を下回り、更なる長身者が多い国際大会を考えると80点以下の得点では勝ち目はないだろう。

今回の大会を振り返ると、ゾーンディフェンスの攻略と総得点のアップは必須の課題と思われ、今後強化の重点にしてもらいたいもの。

全国シニア交歓大会 in YOYOGI（第10回）開催

[普及部]

10回目を迎えた「全国シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI」は、5月15日（月）～5月16日（火）の2日間にわたって代々木第二体育館で開催された。

今回は、体育館の事情から平日開催となったが、男子9チーム、女子4チームが参加し、総参加者数も昨年より増えて220名を超えた。今回も、遠距離の岩手、兵庫から多くのシニアが参加し、白熱した試合を展開。70歳以上の部でも元気なプレーが続出し、高齢でもバスケットボールを生涯スポーツとして楽しむ姿が印象的だった。

試合時間は、男女とも8分クォーター、70歳以上6分クォーターとして、それぞれのバスケットを十二分に味わっていただいた。

主催した振興会では、各チームに振興会会員3名以上の在籍を参加条件としたが、全チームが条件をクリアしての出場となり、振興会会員の増加にも一役買った形となった。その中で、財政的に赤字とならないようプログラムからポスター、スコアシートなどが振興会スタッフの手作りとなり、華々しい代々木の陰には役員各位の大変な苦勞もあった。

第1日目の試合終了後に、渋谷駅近くで開催された合同懇親会には、100名近くのシニアが出席し、参加者同士の交流はこれまで以上に盛り上がり意義のある大会を終えた。

[試合の結果]

5月15日（月）

	チーム名			チーム名	
男子	駄馬	46	VS	32	G s ブルー・ウィンズ
男子	STARS OF STARS	47	VS	19	千葉Coki-Coki
男子	横浜ビー・シーガルズ	30	VS	23	岩手マスターズ
女子	シルバーキッズレディース	8	VS	40	千葉
男子	YOYO	28	VS	24	シルバーキッズ
女子	千葉	25	VS	42	入間テンダース
70UP男子	STARS OF STARS	21	VS	12	シルバーキッズ
女子	入間テンダース	39	VS	6	シルバーキッズレディース

5月16日（火）

	チーム名			チーム名	
男子	横浜ビー・シーガルズ	12	VS	18	シルバーキッズ
男子	岩手マスターズ	29	VS	26	G s ブルー・ウィンズ
70UP男子	A	23	VS	18	B
女子	長野クラブシニア	41	VS	9	シルバーキッズレディース
男子	セブンブラザーズ	18	VS	28	STARS OF STARS
女子	千葉	27	VS	27	長野クラブシニア
男子	YOYO	15	VS	21	横浜ビー・シーガルズ
男子	セブンブラザーズ	33	VS	31	駄馬
男子	千葉Coki-Coki	35	VS	34	混合

今回で10回目を迎えたこの大会は、参加チーム、参加者も当初とは比較にならないほど増えて、2日間とも試合開始は9時30分、終了は19時過ぎになった。しかしどのチームもそのあたりは内情を察してか、交歓交流を主体として和気藹藹で生涯スポーツであるバスケットボールを楽しんでいた。

★ここに10年間にわたって主催してきたことについて、振興会の理事長からコメントが、また、10年目の今回、60歳になって初めて参加した STARS OF STARS の大久保選手から手記が寄せられたので紹介する。

10年を迎えた「全日本シニアバスケットボール交歓大会 in YOYOGI」 渡辺 誠

毎年開催されてきたこの大会は、今年10回目を迎え男子9チーム、女子4チーム延べ220名の選手が参加し、無事終了しました。男子60歳以上、女子50歳以上の年齢のチーム構成で始めた大会ですが、男子70歳以上の選手も増加して数年前から70歳以上の試合も行うようになりました。

試合終了後に渋谷センター街のレストランで開催する懇親会も、多くの選手が参加し、交歓交流の場として毎年恒例の催しとなっています。

シニア世代の多くの方に、代々木第二体育館でプレーする機会を提供しようとの趣旨で始まった大会ですが、体育館の耐震工事で暫くは使用が不可能となり、代替えの体育館を探さなければなりません。多くの方々のご協力で10回の大会を続けられたことに感謝申し上げます、シニアバスケットボールの交流・交換の場を提供できるよう、代々木第二体育館ではないですが、来年も大会を継続できるよう努力する所存であります。

交歓大会が始まった10年前と比較すると、日本のバスケットボールの組織・環境等が大きく変化しています。Bリーグのスタート、既存の家庭婦人、実業団、教員、クラブの連盟組織が合併する社会人連盟の発足などですが、シニア世代のバスケットボールを楽しむ人たちは増加する傾向にあり、バスケットボール界の環境変化の中で、シニア世代の大会が今後どのように受け入れられるのか、これから課題になると考えられます。

競技スポーツではなく、体力の向上より健康を維持することを目標とし、勝敗よりも同じスポーツを楽しむ仲間との交流を優先しながら、バスケットボールを楽しむスタイルがシニア世代の特徴でもあると思います。

また、スポーツをすることによって認知症の予防効果もあると言われてますし、いろいろなスタイルの楽しむバスケットボールが増加するのではないのでしょうか。

- ・選手権大会でなく日常的に地域で交歓試合を行う。
- ・観光も兼ねて地方へ遠征試合に行く
- ・正規ルールではなく楽しめるルール（独自）で試合を行う。
- ・海外のシニアの大会に日本のシニア代表として参加し交歓する。

いずれの時でも、私共が「緩やかな情報交換のネットワークの場」として、役立つことができれば素晴らしいことだと思います。これからの10年の変化に向けて、どのような対応ができるか、組織として検討が必要と考えています。

初出場の全国シニア交歓大会

大久保 有敬

代々木第二体育館のコートに立ったのは、大学3年生のとき以来39年ぶりのことでした。しかもその間、コートはおろか体育館にさえ足を運んだ記憶もなく、非常に感慨深いものがありました。

さらに言えば、高校1年生のとき、全国大会（当時は確か“春の全国高校選抜大会”と言っていたと思います）の決勝を能代工業高校と戦い、テレビ中継のため多くのスポットライトを気持ちよく浴びながら、必死になってプレーした思い出も鮮明に蘇ってきました。

当時の代々木第二体育館は、ゴール近くの台形が真っ赤に色付けされて非常に印象的でした。その赤色が、少しだけ色移りしたバスケットシューズを、しばらく家に飾っておいたと記憶しています。

久しぶりに見た今の体育館は、当然のことながらゴール近くは長方形となり、色もブルーに変わっていて時の流れを感じました。

そんな思いで深い体育館のコートに立った感激もあったのか、初日の試合はとても楽しく、気持ちよいバスケットをさせていただきました。2日目の試合は、前日の興奮からか思っていた以上に疲れが残ってしまい、まともなプレーが全くできずに終わってしまいました。

いずれにしても、私にとっては特別な体育館である代々木第二体育館でプレーできる機会を頂きまして、本当に感謝しております。有難うございました。

[参加チーム紹介]

男子の部

STARS OF STARS

会員	氏名	年齢
○	小澤正博	81
	奥田晃紀	74
○	篠原正邦	74
○	諸山文彦	74
	饗場憲二	71
○	蒲田尚史	70
	松下成裕	69
	三浦眞造	69
	室恵雄	69
	柳沢研二	67
	小池紀彦	65
	渡辺徹	65
	川内孝	64
	奥山幹雄	62
	楠本薫	62
	海老沼郁夫	62
	篠辺和宏	62
	大久保有敬	60
	本橋一美	65
	前橋浩子	54



千葉 Coki-Coki

会員	氏名	年齢
	志賀政司	78
○	渡辺時男	72
	西郷隆輝	71
○	渡辺直幸	68
	高松昭二	67
○	鈴木修	64
	竹田益男	62
	鈴木俊二	62
	竹下幸男	62
	田中稔	61
	平野雅彦	60



駄馬

会員	氏名	年齢
○	山本治	83
	望月慎一	72
	熱田学	68
	山田修一	67
	西川功二	66
	大谷行雄	65
○	橋田龍太郎	65
○	阿部哲朗	63
○	片山祥司	63
	岩清水芳樹	63
	平野秀昭	63
○	藤田覚史	63
	水野俊彦	62
	市川信行	62
	北村哲靖	61
	小島堅太郎	60



横浜ビー・シーガルズ

会員	氏名	年齢
	村山 繁	73
○	條 武志	72
	揖場 熙	70
	狩野 治	70
	芹澤 隆良	69
	石原 泰明	68
	宮次 保明	66
	柳沢 章	66
○	川戸 政角	66
○	山上 久夫	66
	田中 三夫	66
	早川 通泰	66
	田中 芳郎	66
	竹内 護	66
	伊藤 恭介	65
	畑沢 三幸	65
○	瀬下 秀人	64
	安力川 泰洋	63
	栗田 慶一	62
	田所 宏	62



埼玉・GSブルー・ウィンズ

会員	氏名	年齢
	村田 光臣	76
	岩井 厚	76
○	鷲澤 秀夫	72
○	諏訪部 栄一	66
	川上 勉	66
○	増井 英明	65
	植波 吾一	64
	久居 和夫	64
	俵木 登	62
	栗原 昇	61
	小俣 正行	60
	渡辺 清隆	60
	司馬 元	60
	大島 正光	60
	田島 富士夫	60
	高橋 靖	60



シルバーキッズ

会員	氏名	年齢
○	山本 嘉宏	80
○	三谷 千尋	80
	渡邊 操六	79
	天摩 義信	78
	国分 孝雄	77
	野寄 正一	77
○	磯野 和彦	72
	伊藤 宏	75
	中島 利三	69
	横田 茂治	68
	藤原 徹	68
	谷野 章二	67
	東 式輝	67
	山口 敬	67
	梅谷 元樹	67
	芦田 友紀	64
	坂井 克己	64
	浅野 重光	62



セブンブラザーズ

会員	氏名	年齢
○	山見 博康	72
○	蒲田 尚史	70
○	西川 和人	69
	若山 秀夫	69
	山内 豊	69
○	中澤 進	68
○	佐々木 政治	67
	西島 修	66
○	池本 祐一郎	65
	桂木 明夫	64
	坪井 宜夫	64
	荒井 親平	63
○	西川 博之	63
	林 史郎	63
○	田宮 秩	62
○	寒河江 正博	61
	高原 洋太郎	61
	小西 真治	60



岩手マスターズ

会員	氏名	年齢
○	油井 康	81
	七木田 一善	73
	佐々木 力	73
○	高橋 健悦	70
	大内 茂実	66
	引屋敷 聖晴	66
	菅原 正義	64
	今野 庄	64
	後藤 節夫	64
	佐野 信一	63
	引屋敷 晴光	63
○	伊藤 聡	63
	佐藤 淑夫	63
	田中 省三	63
	小野寺 正行	62
	吉田 寿仁	61
	百々 正博	61
	渡辺 重人	61
	榊 康弘	61
	鈴木 繁	60



YOYO

会員	氏名	年齢
	谷口 正朋	71
	日下部 利夫	62
○	小上 晋司	62
	仲尾 健	62
	川合 良侍	61
○	山田 治行	61
	大泉 篤	61
○	杉木 一司	61
	丸田 博	61
	中島 孝治	61
	湯川 修蔵	61
	中江 謙羊	60
	岩瀬 文弘	60
	高橋 邦宏	60
	石原 清孝	60
	小島 照司	60



女子の部

入間テンドース

会員	氏名	年齢
○	井上 由美子	66
○	久居 智子	63
○	石原 明美	61
	中城 敦子	61
	中西 美智子	60
	渡辺 信子	59
	渋谷 由紀	58
	尾崎 蔦江	56
	斎藤 信江	54
	小柳 恵子	52
	小林 知子	53
	宮崎 清美	52
	中島 美紀	50



千葉

会員	氏名	年齢
○	吉岡 尚美	75
○	草野 晴美	64
○	安楽 千枝	64
	井上 江美子	64
○	森 由美子	63
○	鈴木 マキ子	62
	小縣 伸子	62
	本郷 美代	60
	竹内 晴子	60
○	渋谷 美由紀	58
	西成田 美雪	57
○	光野 えり子	55
	小林 弘美	55
	堀内 文子	54
	秋田 千嘉子	53
	矢ノ目 弘美	53
	丸山 千春	51
	佐藤 直江	50
	小久保 千夏	50



シルバーキッズレディース

会員	氏名	年齢
	大平和子	78
	西村英子	76
	久田修	71
○	松岡英子	68
	中田光枝	67
	渡辺孝子	67
	松田陽子	65
○	奥田有美子	65
○	花川光子	65
○	妹尾三和子	63
	黒川純子	63
○	吉岡裕子	60
	佐分恵子	60
	山下直子	58
	高麗郁子	56



長野クラブシニア

会員	氏名	年齢
○	白谷慶子	70
	長谷川陽子	69
	小澤良子	63
	太田正子	63
○	高橋ひろみ	63
	黒岩孝枝	60
	丸山房子	59
	佐藤由起子	56
	古澤睦代	54
○	塩沢千寿留	54
	上口かおり	53
	春日佳実	53
○	渡辺法子	53
	杉本敬子	52
	武田順子	50



70歳以上の部

また、男子70歳以上の部では、SOSとシルバーキッズが各々単独チームを結成して接戦を演じ、2日目のフリー参加の部でも17名の方々が試合に参加し、生涯スポーツとしてバスケットボールに取り組む姿勢をアピール。プレーのローさよりも、そのファイトに対して会場から多くの拍手を浴びた。



SOSチーム



シルバーキッズチーム



元気な混成チーム

※お願いした各チームからの感想文は次号に掲載します。

ミニバス・クリニックに協力

東京都目黒区立中央体育館主催行事へ講師派遣

[総務部・普及部]

平成29年3月20日、東京都目黒区立中央体育館主催のバスケットボールクリニックに、講師として振興会から結城昭二理事を派遣協力した。

区立中央体育館主催による「小中学生初心者向けクリニック」の企画としては今回が4回目であるが、体育館からの募集に応じた区内の小学生、3年生から6年生の50名が参加した。

テーマは昨年に引き続き「シュートを上手くなろう」である。

冒頭、結城講師から、「見ること」と「瞬時に動くこと」を大事なポイントとして挙げ、前者に関し「視線はリングの高さ、自分以外の9人を見ること」、後者に関し「8方向を意識すること」そして共通項として「バスケットボールスタンス」の重要性につき、説明がなされた。

次に具体的なドリルとして、ランニング、ドリブル、ドリブルシュートを行った。特にドリブルシュートではディフェンスマンの腰をめがけて直線的にドライブインすること、そのためにはフェイクの技術の習得が大事であるとの指摘があった。



ドリブル・ドリル



フェイク・ドリル

時間の関係もありシューティング・ドリルまではできなかったが、最後に結城講師から参加者に対し、以下のアドバイスがあった。

- ・シュートはドリブルの延長、床から壁に沿ってリングにドリブルするイメージ
ドリブルを強くつくことで手首が鍛えられ、シュートに繋がる。ドリブルの最終の形がシュートとなるイメージを持つこと。
- ・手首を使ってボールを上上げるのではなく、指先でボールをコントロール（強弱や方向）すること。よって手首よりも指を鍛えること（これは自宅でも練習が可能、寝転んで天井に向かってボールを投げ上げる）
- ・シュートのアーチは、投げ出されたボールが視界から消える程度、これは練習で感覚をつかむこと
- ・そして正しいフォームで繰り返し何度も練習すること



マンツーマンによる説明風景

冒頭で述べた通り、本クリニックは今回が4回目で地域に定着してきた感があるが、参加者はほとんどが小学校上級生である。講師の話聴く際の集中力はやはり中学生に比べると劣るのは仕方がない。その点を配慮することと、加えてお楽しみの要素、例えばボランティア参加の選手を交えたミニゲームを取り入れること等、次年度に向けた課題と考える。



講師と参加選手による模範演技

2時間半にわたるクリニックの最後にモンリオールオリンピック日本代表選手であった結城講師より参加者全員に東京オリンピック・パラリンピックのピンバッジが記念品として手渡された。

また、本年4月より中学生になる18名には恒例のメッセージ文書とバスケットボール英語単語集を手渡した。

開催に当たり、地元の連盟、ミニバス連盟、ミニバスコーチの皆様には、本クリニックの趣旨をご理解頂き、今回も準備段階から大変にお世話になった。東京海上日動男子バスケットボール部（ビッグブルー）から、公式戦の翌日にも拘わらず、鉄本ヘッドコーチ、黒木、佐藤、舟橋の3選手にボランティアとして参加頂いた。誌面を借りて厚くお礼を申し上げます。（文責 蒲田 尚史）



バスケットボール湘南だより（その 18）

◇◇湘南平塚のバスケットボール事情◇◇

中瀬 達雄

◆ 18回目・5年目の湘南だより◆

本稿も18回、5年目にも入ると、毎年同じパターンで活動している平塚協会の事業からは筆ネタも同じものの繰り返しになる。ミニ・中学・高校・クラブと同じ大会の開催だから無理もないが、その中であって少しでも話題性の高い話を探そうと苦勞している。

平塚協会は、神奈川県協会7支部の一角を担っている組織ではあるが、その範囲は狭く管下登録チーム数も5%以下に過ぎない。他地区とはやや違った話題を拾ってみよう。

▽話題を呼ぶ地域バスケット・カレンダー

【5月】Bリーグ・チャンピオンシップ1回戦；クォーターファイナル、川崎ー渋谷ゲームが、13,14日の両日、総合体育館で開催された。

【5・9・2月】幼児バスケット；幼稚・保育園児を対象のバスケット普及活動が、県内ではもちろん、全国的にも活発な地域になっている。幼稚・保育園への幼児用ゴールの無償配布が一段落した今、幼児を集めてのバスケット体験イベントに力を入れている。多くのバスケット愛好者にPRをと、他イベントの中に割り込んでの行事にしている。5月はミニバス大会、9月はシニア大会、2月は地区フェスティバルに組み込んで開催している。

【6月】県高校決勝リーグ；県高校総体の最終日は、10年以上にわたり平塚総合体育館で開催され、毎年満員の観衆を集めている。今年こそ、Bリーグの川崎・横浜が観客動員に努力しているが、小さいアリーナながら超満員大会を続けてきたイベントである。

【9月】全日本実業団；ひらつかアリーナは、観覧席は少ないが、4面コートで、実業団やクラブのトップ大会には使い勝手がよい。第1回全日本社会人選手権を始めビッグ大会が開かれ、今年も9月の3日間、全日本実業団競技大会が開かれる。

【10月】車椅子バスケット；初年度には、平塚協会役員が市福祉関係部門などを走り回って実現したものだが、今では恒例行事になっている。東日本から十数チームが参加しプロクトーナメントで戦う。開会式には、八代元議員が挨拶に駆けつけ、ゲームの間では、地元の小中学生に車椅子バスケットの体験を指導している。会場のひらつかアリーナが入口から段差のないことも継続の理由らしい。

【10月～4月】Bリーグ；フランチャイズ制が厳しくなったが、横浜と川崎が準フランチャイズとして、年に数ゲームずつ開催している。プロゲームらしいイベントとして、場内にアルコールを含む飲食売店があり雰囲気盛り上げている。去る4月22,23日の横浜戦は両日も2,000人以上の観客が入り、逆転劇を楽しんでいた。

【11月】全日本第3次；全国8か所で行われる新方式の全日本選手権の第3次トーナメントが、11月25,26日に平塚総合体育館で開催となった。男子B1,女子WJBLの全チームが登場し、ベスト8に絞り込む見ごたえのある大会となる。

【1月】県ミニバス決勝大会；優勝チームが全国大会に出場する県の最高レベル大会で、3年続けて平塚総合体育館で開催されている。県内ではあるが全国で唯一、地上波でテレビ放映されているイベントである。

【3月】平塚スポーツフェスティバル；市内スポーツ団体が3年前から始めたイベントで、平塚総合公園内のスポーツ施設を使った30種目ほどの市民参加スポーツ活動である。今年3月26日に、東海大男子と湘南SC車椅子チームによる教室と模擬試合が行われ、平塚のミニバス、高校生が参加してトップアスリートとの交流を楽しんだ。

【通年】リトアニアがらみ；2020東京オリンピックのリトアニア直前キャンプ地として、平塚市への誘致が決定した。同国はバスケットボールが強いと言うことで、誘致段階で平塚市当局から平塚バスケットボール協会にアプローチがあり、先のBリーグ・ゲームには大使夫妻の観戦もあった。リトアニアのバスケット参加が本決まりとなれば、楽しい話題となろう。

◆ようやく地域出身のBリーグプレーヤー◆

B1・2リーグ36チーム以下、女子Wリーグまで数えると50チーム、おそらく600人以上のトッププレーヤーが、コート上で活躍しているであろう。残念ながら、これまで、ここ平塚出身の選手は皆無で「地域からトップリーグ選手を」が、悲願の掛け声だった。

▽4月22日、横浜ビー・コルセアーズが岩田涼太選手の契約を発表

岩田選手の抱負「地元である神奈川のチームでプレーできることを大変嬉しく思います。コートに立った時には得意のシュートを積極的に狙い、ハッスルプレーで観ている方にワクワクして頂けるような選手になりたいと思います。皆さんの声援が力になりますので、ぜひ、熱い応援よろしくをお願いします！」

★No. 6、身長185cm、ポジションSG/SF、3月11日から出場可能

▽岩田選手、プロ選手までの足跡

平塚市立金目小在学中に金目ミニバスに所属し、北相西地区選抜に選ばれた。市立金目中では、県中ブロックで勝ちぬき、県大会ベスト8に入り、ジュニアオールスター 神奈川選抜のメンバーにも選ばれた。

残念ながら、この地区に彼の力を生かす場がなかったが、東海大相模高に進学して、彼の力は3年間に十二分に発揮された。県男子高校界のトップグループを維持し、インターハイ、ウィンターカップに出場し、全国ベスト8の実績を残した。このほか、国体で県代表としてもプレーしている。

東海大に進んでからは、レギュラーメンバーとして2回のインカレ優勝に貢献するなど、黄金時代のメンバーとして活躍し、さらに神奈川県成年代表として国体本大会にも出場した。

大学卒業後は、練習生を経てこの3月に横浜ビー・コルセアーズのベンチに入り、出身地・平塚に戻ってきた。

(平塚バスケットボール振興会代表、元日本協会理事、日本実業団連盟理事)



会員だより



尾張名古屋に 4 校リーグあり（その 3）

三谷 千尋

この 4 校リーグは、毎年 4 校の OB の代表者が集まって行事予定を策定し運営に当たっている。B 氏に他校の代表とのことを尋ねると、いつの間にか今の 4 人が「阿吽」の呼吸で行事の運営に当たるようになっていた。その経緯はあまり記憶がないが、彼等のことは、彼等の現役時代からよく知っている。顧問の先生方は毎年協力的であるし、これまでにトラブルのようなことが起きたことは一度も無い、と言う。67 年間の苦労話がお互いにあるのではと、期待したのであるが、どうやらそれはあっさり裏切られた感じである。

この様に、各校には夫々事情は違っても長年にわたって母校の部活を支援し続ける熱血漢が存在する。彼等は皆、母校の熱心な先輩の背中を見て育ち、その業務を引き継いで現在に至っているのである。4 人は現在も未だコートに立って自分のプレーを続けながら、4 校リーグの開催運営に積極的に参加して、協力を惜しまないのである。

各校の 1 学年に部員が 10 名、男女で 20 名、4 校で 80 名程在籍していると仮定すると、67 年間で 5,360 人のバスケット部員が、4 校リーグを 2 度以上経験して世に出て行ったことになる。そして、その部員の子供や孫たち（その数？万人）が、今何処かで同じようにバスケットをかじっているのかも知れない。ひょっとすると、4 校の中でかじっているのかも知れない。何処かで有名選手になっているのかも知れない。

こう考えると、皆の母体は同じ（一中）であるから、67 年という 1 本の長い糸に堅く結ばれた誇りのようなものがあって、気付かぬうちに、4 校のメンバーがそれに操られて、立派な伝統を織り上げて来ているのだと思えてくる。

4 校リーグは、尾張名古屋のバスケットボールの草の根活動として、絶えることなくこれからも続いて行き、当地方のバスケット界の発展に、隠れた底力として貢献して行くに違いない。ここに改めて誇りを持ってそう宣言したい。リーグを立ち上げて下さった先輩方、そのリーグの伝統の灯を守り続けて下さった諸先生方と先輩、同輩、後輩と選手の皆様、本当に御苦労さま。有難う。4 校リーグ万歳である。

補足事項

- ① 毎年当番校は交替し、4 年に一度の順番制である。 節目の大会には、記念総会を開催。
- ② 最近、夏季は暑いので、エアコン設備のある公共又は私設の体育館を借用している。
- ③ 過去 30 年の戦績： 優勝回数 男子：明和 11、旭丘 8、菊里 4、向陽 7、
女子：明和 10、旭丘 10、菊里 6、向陽 4。
- ④ 過去の県内優勝の実績(男子)： 菊里（昭和 24）、明和（昭和 29、30、32）。



2014年8月 4校リーグ集合写真

67回開催し続けている理由の私的総括

- ① リーグ開催の当初の経緯を、4校の後継者がよく理解し、継承して来ている。
- ② 4校各校に此のリーグを支えるOB・OGの会がしっかり根付いている。
- ③ 4校各校のリーダーが、比較的長期に亘り、安定して母校の支援に従事して来ている。
- ④ 4校各校のバスケット部の顧問の先生方が、このリーグの開催・参加に対し好意的である。
- ⑤ 4校各校のバスケット部員数は常に不足が無く、その活動は充実している。
- ⑥ 4校各校のバスケット部員は、意欲的にこのリーグに参加し、楽しんでいる。
- ⑦ リーグの開催会場の雰囲気には、何時も一体感がある。

[明和高校、昭和31年（1956）卒 三谷千尋]

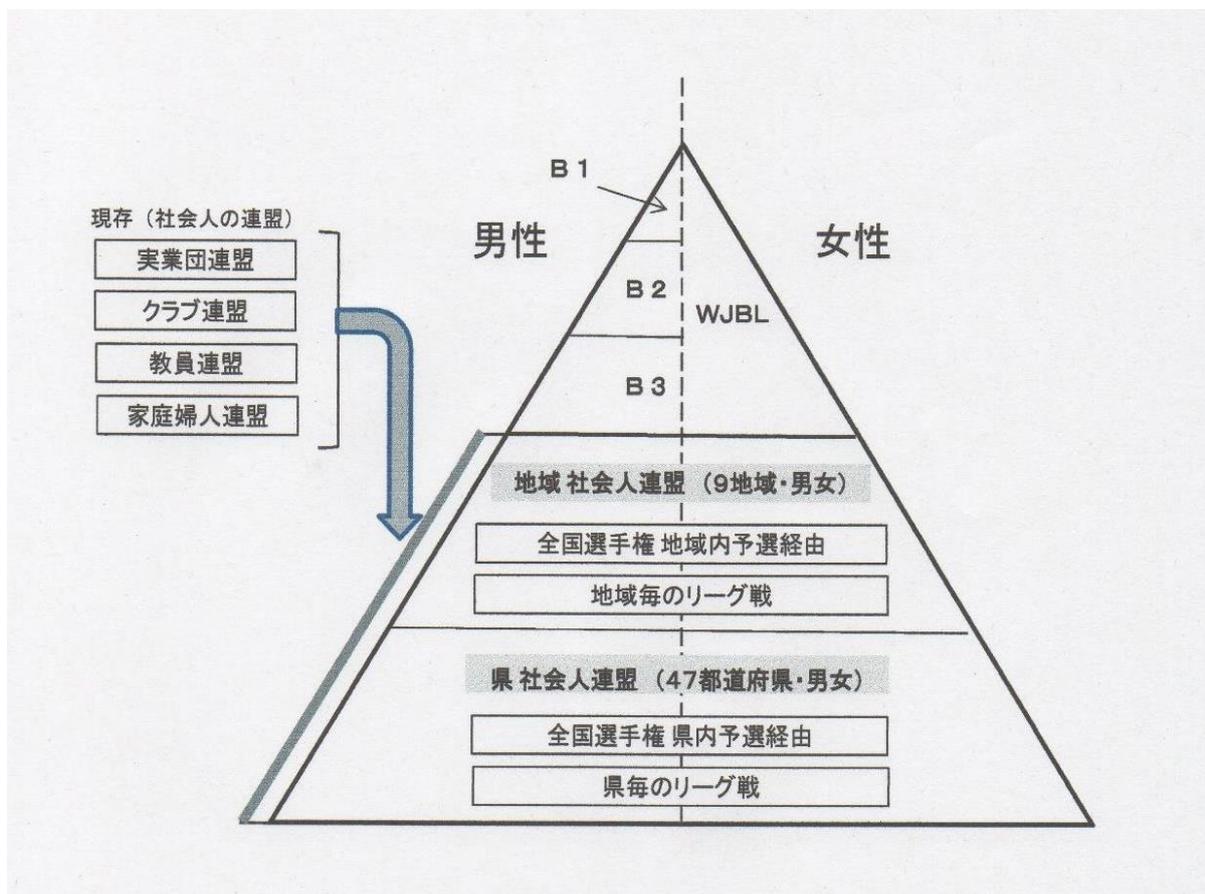
J B A 社会人連盟発足

実業団、クラブ、家庭婦人、教員の各連盟統一へ

[編集部]

J B Aは、2015年から「社会人カテゴリー活性化推進会議」を設置して、社会人カテゴリーの競技環境整備の再編を検討してきたが、このほど「日本社会人連盟」(J S B)を発足させた。

これまで各々の歴史を刻んできた、実業団連盟、クラブ連盟、教員連盟、家庭婦人連盟を統一して、男子Bリーグ、女子W J B Lを頂点とするピラミッド型の組織運営を目指すもので、全国どこでも年間を通じてバスケットボールに親しめる環境を整備する。



その目標として、これまで各都道府県で異なっていたバスケットボール環境（例：リーグ戦）を統一し、バスケットボールに関わる競技者が公平にバスケットボールをやりたいと思ったとき、いつでもどこでもバスケットボールができる環境を作り出すことにより、競技者人口の増加を狙い、生涯スポーツとしてバスケットボールに取り組める環境を企画、運営することを挙げている。

これによってこれまでの4連盟は、平成30年5月～6月に解散し、ひとつの新たな社会人連盟に所属し、その連盟に登録するとともに各都道府県協会に登録して、新方式による大会などに参加することになる。

出場者は都道府県社会人において、4つのカテゴリーに分れて試合を行う。すなわち年齢制限なしのオープン、40歳以上、50歳以上、エンジョイ（女性のみ）の4グループ。

競技は、図のように男女とも地域社会人大会（選手権とリーグ戦）、各県社会人大会（リーグ戦、選手権予選）などが開催され、競技者は、地域または都道府県いずれかの大会に出場できるが、地域と各県の両方には出場できない。

男女それぞれで県レベル社会人連盟と地域の社会人連盟との間、また男性のみ地域の社会人連盟とB3リーグとの間、での入替戦も計画されている。

新たな連盟は、一般社団法人日本社会人バスケットボール連盟として、平成29年3月に発足し、法人としての登記も完了している。更に4月には第1回目の理事会を開催し、会長、代行副会長、業務執行理事などを下記の通り決定した。（敬称略）

会 長	逢沢一郎	（現クラブ連盟）
代行順1 副会長	田中博行	（現実業団連盟）
代行順2 副会長	田窪 徹	（現教員連盟）
代行順3 副会長	山田洋子	（現家庭婦人連盟）
業務執行理事 副会長	佐藤 昭	（現実業団連盟）
業務執行理事 専務理事	門川浩人	（現クラブ連盟）
事務局長兼総務部	小西道雄	（現実業団連盟）
競技部兼事業部	山花英司	（現クラブ連盟）
広報部兼審判部	宇田津浩史	（現クラブ連盟）

年間登録費については、チーム登録料としてJBAに2万円、都道府県協会に1万円、競技者登録料としてJBAに2千円、都道府県協会に1千円を納入することを見込んでいる。

そして大会参加費は、リーグ戦約5万円、選手権約2.5万円で、各チームに換算すると、1チーム15名として個人登録費を含め、一人当たりの負担は年間約1万円となる計算。

大会などの詳細については今後新連盟で詰めていくことになるが、チーム数や競技者人口が多いだけにその運営は容易ではない可能性もある。

訃 報

足立 舒夫 氏 平成29年3月11日 87歳
野口 昌三 氏 平成29年4月14日 86歳

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

野口昌三さんを偲んで

従野 明宏



野口さんは、昭和25年に佐賀高校から東京教育大学(現筑波大学)に入学され、私たちの1年先輩として公私にわたり大変お世話になりました。

私たちは、入学の1年後の昭和26年(1951)から、故吉井四郎先生がバスケットボール部の監督になられ、その素晴らしい指導力で「何を、どうして、どのようにして」練習しなければならないかという、理論的な指導を受けました。

野口さんは、大学4年の時主将として大活躍され、関東大学選手権、関東大学リーグ戦で優勝し、全日本総合選手権大会では準優勝という成績を残しました。同級生には松尾武司さん(前回東京オリンピック決勝戦審判)1年下には後に日本鋼管で活躍し、全日本代表チームの中心センターとして大活躍された糸山隆司君(メルボルン、ローマオリンピック日本選手団主将)がおりましたが、彼は佐賀高校在学時野口さんの1年後輩で、野口さんを慕って東京教育大学へ入学したようです。

野口さんは非常に温厚な人柄で、大学で主将になられてから部の雰囲気が一変し、当時の大学部活では考えられないような変化がありました。下級生の意見もよく聞いて丁寧に対応して下さいましたが、これは野口さんの人柄の表れであったと思いますし、同級生、下級生から信頼され、慕われる存在でした。

フィリピンの航空会社チームが来日して親善試合を行ったとき、フィリピンのセンター・カンポスが左右のコーナーから、左右それぞれの手で確実にシュートを決めているのを見て、それをマスターしようと懸命に練習していたことも思い出されます。

大学卒業後は、大阪の田辺製薬に入社され実業団でも活躍されました。昭和29年(1954)にマニラで開催されたアジア大会に日本代表として出場し、銅メダルを獲得されています。

東京に帰ってこられてからは、東京都協会役員をされ、昭和49年(1974)から昭和63年までの長期間、関東実業団連盟理事・監事を務められ、日本実業団連盟の理事も務めら

れました。

また、東京教育大学のOBとして関東大学連盟や、日本学生連盟の役員も務められています。

学生連盟が新旧二つに分裂したときも、人の和を重んじてその修復に尽力され、誠心誠意をもって物事に対応され、学生連盟は見事に修復されました。

母校筑波大学のOB会長も永い間つとめられ、現役諸君の世話もよくして下さいましたし、毎年行われる吉井先生を偲ぶ会にもお元気に出席されていました。

筑波大学が3年連続で全日本大学選手権大会に優勝した際に祝賀会が開催されましたが、その会に欠席されていたので、体調を崩されたのではないかと心配していたところです。

バスケットボール界に長い間貢献された野口昌三さんに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

野口昌三 先輩を偲ぶ

山本 治

私が野口先輩のプレーを最初に見たのは、昭和29年(1954)北海道国体決勝戦の時です。その試合は東京代表の熊谷組と野口さん属する大阪代表の試合でした。当時私は札幌に住んでいてこの試合を見たのですが、野口さんとも熊谷組とも後々深い縁になるとは思いませんでした。私が野口先輩に関わりお会いできるようになったのは、野口さんが筑波大学OB・OG会の会長になられてからです。

野口さんが東京教育大学(現筑波大学)を卒業されてから入学した私は、同じチームでプレーしたことはありませんでしたが、野口さんを中心とする大阪の田辺製薬の試合などはよく観戦しておりました。

あるとき、田辺製薬と教育大学先輩である糸山さん属する日本鋼管との試合を見ましたが、野口さんは一人でボールを操り、強豪日本鋼管との試合を接戦に持ち込み、目を見張るような活躍をされました。野口さんは試合後、「それらのプレーについては、いろいろと批判を受けたので反省している」と仰っていましたが、私たち後輩からすれば、敢然と強豪に立ち向かう姿は、自慢してもよいと思われるところでしたので、私はなんと謙虚な方なのだろうと思いました。

野口さんはOB・OG会長として、いつも部のことや選手のことに気を遣い、大学の試合の時は必ず観戦に来られ、帰りには私たち後輩にも気を使われて歓談の場を設けられ、先輩風を吹かせることもなく、穏やかで人の批判などは一切されませんでした。

振り返ってみますと、野口さんのような名プレーヤーで、バスケットボール界に多くの実績をもたらされた大先輩に対して、平然と応対していた自分の厚顔さを恥じる次第です。

穏やかでいつもやさしい笑顔でおられた野口さんが忘れられません。安らかにお休みください。

事務局だより

◇会費納入のお願い

今年度の会費納入をお願いいたします。

振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行

00100-3-316035

NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱東京UFJ銀行

神保町支店

普通預金口座 1684743

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行

丸の内中央支店

普通預金口座 1004687

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

◇秋の講演会予定

11月に秋の講演会・交流会を予定しています。講師他、詳細は改めてご案内しますので、多数の方のご参加をお待ちしています。



プラザ こぼればなし

- ◇ BリーグのCSを観戦して、その騒音と英語によるアナウンスに辟易するのは老者のひがみであろうか。国際ゲームのアナウンスで英語を使用するのは当然であるが、国内リーグで英語によるディスクジョッキー並みの雄叫びは何とかして欲しい。老いの身の観客にとっては毎回悩ませられる。ほとんどの観客がこれを望むのであれば、やむを得ないことと我慢しよう。しかし、イベント主催者側の独りよがりかもしれないし、若手が希望するのか、観客のアンケート調査をしてはどうだろう。
- ◇ 国内における国際試合は、日本代表選手の発表と共に日刊紙への広告など、広くメディアによる広報活動がほしい。結果は成績内容に応じて報道されるが、むしろ事前の早い周知により観客動員を図りたい。6月初旬、長野市で開催の「東アジアバスケットボール選手権大会 2017」に出場し、3位を獲得してアジア選手権から世界大会への出場を目指す男子日本代表を、鼓舞、激励する意味でも、多くの観客が欲しいもの。2月の国際強化試合でもあったように、結果が出るまで仲間の話題に乗らない。ネットで常時検索できるファンばかりとは限らないのだから。
- ◇ 最近、スポーツ界の若手選手が国際的に活躍している。バスケットでも活躍できる若手選手がいないのだろうか。バスケットボール国際試合での若手選手の出場は難しいが、地域に密着した各クラブにおいて将来日本を背負って活躍できるような若手選手を発掘し、育成することはそんなに困難ではないだろう。Bリーグクラブは育成チームを持ち、若手を発掘し育ててほしい。育成した若手はやがてクラブの花となり、そのスター選手は応援団を全国に引き連れて観客動員増に寄与してくれるであろう。
- ◇ BリーグCS決勝のテレビ放送に関して、埼玉県在住の一般主婦(52歳)の感想が朝日新聞の投書に寄せられていた。内容は、手に汗握る展開で見応えがあり、今後もBリーグの盛り上がり期待し、地上波でも多めに放送してもらいたいということであった。Bリーグは、従来のバスケット界になかった地域密着志向を広く浸透させて、新しい文化が芽生えてきた兆しとして好感がもてる。
- ◇ 振興会で会員数漸減が現在大きな課題となっている。会員勧誘のキャッチフレーズとして「振興会でバスケットボール界を活性化しよう」を提案したい。本年の総会で本会の事業活動が、協会をはじめとするバスケットボール団体への協力と支援、バスケットボールの広報・啓発活動の推進や組織の充実という、3項目を柱とすることが決まっている。これは「私たちと一緒に会員全員でバスケットボールの活性化に参画しよう」ということである。一人ひとりが会員の勧誘に励みたいもの。

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール sinkokai@jbbs.jp

染めるだけじゃない! ハーブの作用で嬉しい効果



野菜・食材だけでなく 白髪染めも安心なものを

植物原料100%から生まれた
自然派の白髪染め&トリートメント

化学の力に頼らず安心して白髪を染めることができる。自然界には天然の色素を持つ植物が沢山存在します。ヘナがその代表的な植物であり、天然の染色力を持つだけでなく、素晴らしいトリートメント効果をあわせ持ちます。頭皮と髪を傷めずに美しく艶やかに染められるのが大きな特徴です。



白髪染め + 潤い・ツヤ + ハリ・コシ



グリーンノートヘナ・ヘナスーパー

- オレンジブラウン ...1500円+税
- ライトブラウン・ナチュラルブラウン ...1600円+税
- スーパーブラウン (早染め) ...2200円+税

オーガニータ (エコサート認証ヘナ)

- ビターオレンジ・ノンカラー ...1800円+税
- サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン ...2300円+税
- ノンカラー ...1600円+税

株式会社 グリーンノート ☎ 03-3366-9701 詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶ <http://www.henna.co.jp>

横浜中華街 皇朝点心舗

世界チャンピオンの肉まん

楽R天 YAHOO! JAPAN 第1位 第2位



1個100円 (税込)
※各種お土産取扱店

皇朝レストラン

時間無制限! 食べ放題

120種以上 1,990円~ (税込)

王朝 (担担麵)

ランチ、コース、ドリンクも充実!

中華街に、こだわり健康志向! 特製ツカメ練り込み無使用の卵々麵をはじめ、お料理50種以上。麵・ご飯20種以上、お新20種以上をご用意!

皇朝點心舗

横浜中華街 店舗案内

皇朝點心舗本店 (中華街大通り店)
皇朝點心舗2号店 (中華街大通り店)
皇朝點心舗3号店 (中華街大通り店)



野菜・食材だけでなく
白髪染めも安心なものを



0
化学染料
ゼロ

ヘナは
自然派の
白髪染め
です!

グリーンノート ヘナ シリーズ

各100g

ヘナ・ヘナスーパー (早染めヘナ)

オーガニータ (エコサート認証ヘナ)

オレンジブラウン	1500円+税	ビターオレンジ・ノンカラー	1800円+税
ライトブラウン・ナチュラルブラウン	1600円+税	サハラブラウン・アースブラウン・ディーブラウン	2300円+税
スーパーブラウン	2200円+税	ノンカラー	1600円+税

植物成分100%
お湯で溶いて
塗るだけで簡単!



潤い
を閉じ込めて
艶やかに

コシ
が出て根元から
立ち上がる

ボリューム
アップ

しっとり
落ち着いて
まとまる

やっぱり天然が一番体にいい!
人工的な美しさはもういらない!

グリーンノートのヘアケアシリーズはシリコンはもちろんのこと、石油系成分は一切使用していません。人間本来に備わる美しさを最大限に引き出すことだけを考えて自然派の研究者が作りました。

天然由来成分100%

石油系成分を一切使わない



再タイプ共通 全3色

脱ケミカル
ライフ!

グリーンノート ヘアケア シリーズ

敏感肌に・洗うたびに髪質向上
自然葉 (しぜんは) シャンプー

部分用白髪隠し
ヘアカラースティック

広範囲用白髪・薄毛隠し
ヘアカラーファンデーション

本体	300ml	3000円+税
ミニ	30ml	400円+税

2200円+税	バクトセット	3600円+税
	詰め替え用	3100円+税

製造販売元：
株式会社 グリーンノート
東京都中野区東中野2-20-13
☎ 03-3366-9701

リンス
不要